

9月21日は 世界アルツハイマーデー

認知症とは、アルツハイマー病や脳梗塞などが主な原因となって、記憶障害や判断力の低下がおこり、日常生活に支障をきたした状態を言います。認知症と診断された方は、「不安」、「悩み」、出来なくなることが増えることの「焦り」といった様々な感情を抱えながら、日々を過ごすことになり、周囲の方々との関係が損なわれることも少なくありません。しかし、周囲の方々の理解や「少し」のサポートで、悩みや不安を一人で抱えることなく、仕事を続けたり、地域の集まりに参加したり、周囲の人とのつながりを持ち続けることができます。認知症になってもできることは沢山あります。できることに目を向け、できないことをサポートしていくことで認知症になっても本人の希望に沿い、住み慣れた家や地域で暮らしていただける社会にしていくことが求められます。

福岡県では認知症になってもなくても、社会の一員として、住み慣れた地域で生活でき、暮らし続けるのが当たり前となる社会を目指し、世界アルツハイマーデーに合わせて認知症に関する啓発活動を実施していきます。

多くの皆様に、認知症についての理解を深めていただくことを期待します。

共生社会の実現を推進するための認知症基本法

認知症は2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると言われており、「認知症は誰も避けては通れない」ものとなりつつあります。こうした中、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるように、認知症の人が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続ける社会を実現するため、2015年1月「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が制定され、取組を続けてきました。そして、今年6月に認知症に関する初の法律、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立しました。今後はより一層認知症に対する正しい理解が必要となります。

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の概要はこちら⇒
(厚生労働省HPより)



当事者・家族の声

「出来る事をうばわないでほしい。本人は何も変わらないよ。」

「ネガティブに考えるのではなくポジティブに行動することが大切だと感じました。」

「本人が機嫌よくいたらまわりも楽になり良い関係が築けるというお話が心に残りました。」

「私の家族。認知症とは考えず優しい心と一緒に生きて行こうと思います。」

「『認知症』の人と思って話をしているけど、普通の人と何も変わりはないよね。病気だからというわけではなく良い意味で皆、普通ですよ。」

イベントのご案内

福岡県では世界アルツハイマーデーの時期に合わせて、県民の皆様へ啓発活動を実施しています。令和5年度は以下の取組を行います。

ライト
アップ

オレンジライトアップイベント
2023 2023
9.21 (木) >> 9.27 (水)

認知症のシンボルカラーであるオレンジ色のライトアップを福岡タワー、旧福岡県公会堂貴賓館、クローバープラザの3か所で行います。

福岡タワー

福岡市早良区百道浜2丁目3番26号
※福岡タワーのライトアップは9月21日のみです。



クローバープラザ

春日市原町3丁目1-7



旧福岡県公会堂貴賓館

福岡市中央区西中洲6番29号
※旧福岡県公会堂貴賓館は9月23日のみ違う色になります。



講演会

認知症当事者による講演会

2023
9.25 (月) 14:00~16:00

認知症と診断されても不安を乗り越え前向きに、笑顔で暮らす姿を発信します。認知症当事者とその家族の生活を描いた映画「オレンジ・ランプ」のモデルとなった丹野智文さんとプロデューサーの山国秀幸さんにご講演いただきます。事前申込は不要ですが、席には限りあり（100席）立見となる場合もございます。ご了承ください。

場 所：県庁1階ロビー（福岡市博多区東公園7番7号）

講演者：丹野智文氏
（映画「オレンジ・ランプ」のモデルとなった認知症当事者）

山国秀幸氏
（映画「オレンジ・ランプ」プロデューサー）

認知症
フラワー展

オレンジガーデニングプロジェクト

2023 2023
9.19 (火) >> 9.25 (月)

県庁1階ロビーにて、認知症のシンボルカラーであるオレンジ色の花や折り鶴等を展示。認知症について学べるパネル展も開催。若年性認知症サポートセンターによる出張相談も受けます。
（初日は11時～、最終日15時まで）

認知症に
関する相談先

福岡県が設置する認知症相談窓口

福岡県では認知症の人及びその家族等が抱える悩みに関する相談に無料で応じ、住み慣れた地域で安心して生活できるように支援します。一人で抱え込まないで、まずはお電話ください。

福岡県若年性認知症サポートセンター



福岡県認知症介護相談窓口



福岡県内の認知症（疾患）医療センター

福岡県及び政令指定都市では、認知症に関する専門医療相談を受けるとともに、地域における保健医療・介護関係者の連携を推進し、認知症の適切・迅速な医療体制の構築を図る、認知症医療の専門医療機関として認知症（疾患）医療センターを指定しています。もしかして認知症かな？と思ったらお気軽にご相談ください。

福岡県、政令指定都市の認知症医療センター一覧



問合せ先：福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課
TEL：092-643-3250

認知症本人講演会

認知症になっても笑顔で生きる

9月は世界アルツハイマー月間です。

福岡県では県庁ロビーにて、認知症の人とその家族の実話を描いた映画「オレンジ・ランプ」のモデルとなった認知症当事者である丹野智文さんと、映画プロデューサー山国秀幸さんを招き、認知症になっても「自分らしく、笑顔で生きる」講演会を開催します。

日時

9/25 月 14:00～16:00



講師プロフィール

丹野 智文氏

(写真左)

1974年宮城県生まれ。東北学院大学を卒業後、県内のトヨタ系列の自動車販売会社に就職。

トップセールスマンとして活動していた2013年、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける。

2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本ワーキンググループ」（現・一般社団法人「日本認知症本人ワーキンググループ」）を設立した。9年前から、認知症の人が、不安を持つ当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開いている。

山国 秀幸氏

(写真右)

1967年生まれ、大阪府出身。映画プロデューサー、脚本家。社会課題をテーマにした映画を企画・プロデュースし、全国各地での市民上映会にも取り組む。

主な作品に介護職を取り上げた『ケアニン』シリーズ（2017、2020）、在宅医療・介護をテーマにした『ピア～まちをつなぐもの～』（2019）、認知症当事者をモデルに原作・プロデュースを担当した『オレンジ・ランプ』（2023）があります。

映画『オレンジ・ランプ』

Orange lamp

あらすじ：39歳のカーディーラーのトップ営業・只野晃一（和田正人）は充実した日々を送っていたが『若年性アルツハイマー型認知症』と診断された。不安と戸惑いの中、妻（貫地谷しほり）と娘たちとともに人生を諦めない、前を向いていくまでの実話に基づいた物語。

主催：福岡県

開催場所：福岡県庁1階ロビー（福岡県博多区東公園7番7号）

参加料：無料

申し込み：申し込み不要

※席には限りがあります。来場多数の場合は立見となる場合がございますがご了承ください。その他中止の場合は福岡県若年性認知症サポーターセンターホームページにて中止のご連絡をいたします。

お問い合わせはこちらから

福岡県若年性認知症サポーターセンター

☎0930-26-2370

受付時間／月～金曜日 10:00～16:00

定休日／お盆・年末年始



ホームページ